

韓国でランピースキン病が発生!

今一度、発生予防を徹底しましょう!

韓国におけるランピースキン病の発生状況

(2026年7月12日時点)

全北特別自治道

2026年7月11日

淳昌郡

韓牛農場（8頭飼養）

（参考）全北特別自治道の過去の発生状況

2023年10月24日以降14件発生
（2024年は発生なし）

韓国では2024年発生以来1年7カ月ぶりに発生

農林水産省動物衛生課

出典：韓国農林畜産食品部プレスリリース

過去の発生状況

	発生件数	殺処分対象頭数
2023年	131件	6,995頭
2024年	24件	304頭
2025年	-	-

対策

今回の発生を受けて、発生農場における移動制限、発生農場の所在する地域でのワクチン接種等の措置を講じるとともに、全国の農場における媒介昆虫対策を強化することとしています。

★：2026年に発生が確認された地点

■：2026年に発生が確認された行政区画

■：2024年に発生が確認された行政区画

■：2023年に発生が確認された行政区画

日本国内の状況

2024年12月に熊本県で発生が確認されて以降、終息しています。本病の我が国への侵入経路として近隣諸国からの媒介昆虫等を介した侵入が考えられます。韓国での本病発生により我が国への侵入リスクが高まっています。

また、令和8年7月1日の法改正により、届出伝染病から**家畜伝染病**へ格上げされ、**緊急ワクチン接種、殺処分、移動制限**等の義務付けがされています。

まん延防止に向けて

- 定期的に観察し、本病を疑う場合は速やかに隔離して獣医師又は家保に連絡
- 殺虫剤散布、粘着シート設置等により吸血昆虫対策を行う
- 他の畜産施設で使用した器具は原則として農場内に持ち込まない
- 血液を介しての感染防止のため、注射針、人工授精用器具その他体液（生乳を除く。）が付着する物品の1頭ごとの交換および消毒

ランピースキン病

MAFF
農林水産省

Point

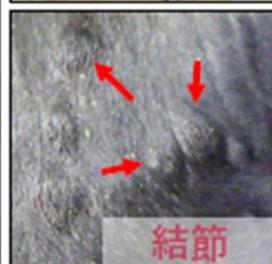
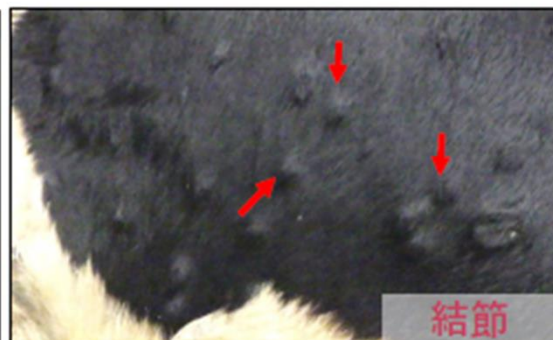
ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に、蚊、ハエ、サシバエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈します。本病は死亡率は高くなく、自然治癒しますが、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大



疑わしい場合は
直ちに連絡！



ランピースキン病の侵入防止対策

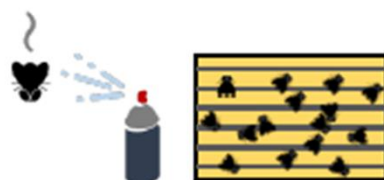
01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、
出荷、移動時は健康観察を徹底。



02 害虫の駆除

殺虫剤、粘着シート、
IGR剤等も活用。



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。

千葉県西部家畜保健衛生所 TEL 043-250-4141 FAX 043-286-0090
※ランピースキン病が疑われる症状があれば速やかに連絡してください。
※夜間・休日は転送されますので、必ず5回以上コールしてください。